

一見 勝之・三重県知事 新年インタビュー



150th Anniversary

三重県誕生 150周年

三重県の未来を創造し、次の50年へ

― 昨年はどのような年でしたか。

一見知事 まず、昨年4月から10月まで開催された大阪・関西万博では、三重県は関西パビリオンにブースを出展し、関西パビリオンの中で一番多い、当初想定していた約2倍の63万人を超える方にお越しいただき、とても嬉しく思います。9月には「三重のおまつり大集合!」という県内10の祭りが集まるイベントを開催し、約1万3千人の方にお越しいただきました。また、7月に鈴鹿と鳥羽にみえ応援ポケモンのミジュマル公園が開園し、多くの方にお越しいただいています。11月には、全国豊かな海づくり大会で、天皇・皇后両陛下が志摩市と南伊勢町にお越しになられました。三重県の良さが全国、あるいは全世界に発信できた年だと思います。

― 高市内閣の取組に対する所感、評価を。

一見知事 先進国をはじめ、世界では女性の政治リーダーが出ている中、日本でも初の女性総理が誕生し、男性とは違う観点から政治運営をしていただけると非常に期待をしているところです。高市総理は、大阪・名古屋・東京間リニア中央新幹線早期実現議員連盟の会長を務められ、さらに奈良県出身で三重県のことをよくご存じですので、そういった点でも期待しています。長引く物価高により厳しい状況が続く中、スピード感をもって経済対策に取り組まれるとともに、三重県が全国知事会を通して継続的に要望してきた、「人口戦略本部」を設置されており、今後も地方の声を聴きながら取組を進めていただきたいと思います。

― 県政の課題及び2026年の目標、主要事業は。

一見知事 今年も、三重県民の命を守り、三重県をさらに発展させる取組を進めていきます。防災対策については、これまで、県内で18基不足していた津波避難タワーの整備支援に取り組み、令和7年度末までに8基完成予定で、残りの整備も進めています。今後は、南海トラフ地震に特化した条例や受援（援助や支援を受ける）計画をつくり、それに基づき効率的・効果的に取り組みます。また、子ども施策もさらに展開していく必要があります。「命を守る」という意味で、医療も大事です。三重県はまだ医師が少ないので、医療提供や病院維持が難しくなってきます。現在、産科分娩施設をモデルに議論しているところで、対応をしっかりと考えなければならないと思っています。さらに、物価高が長期化する中、賃上げや金利上昇で大きな影響を受ける中小企業や、厳しい状況に置かれている県民の皆さんの暮らしを守るため、昨年12月に補正予算を組み、迅速に対応したところです。今後も皆さんの声を聴きながら、きめ細かな支援を続けていきます。加えて、産業政策も重要で、半導体産業の振興や農林水産業への支援、観光もこれまで大阪・関西万博などの機会を活用しPRしてきましたが、より一層取り組んでいく必要があると考えています。

― 昨年は全国でクマによる被害が相次ぎ、過去最悪の状況。クマ出没への対応は。

一見知事 全国でクマによる死亡事故が過去最多を更新する中、県内でも昨年は80件を超える